

令和5年度 学習計画(シラバス)

教科	科目	対象学年 コース	単位数	担当者氏名	教科書 著者 発行所	使用教材・発行所
地理歴史	世界史B	3学年 (文系)	4	長澤 優希	新詳 世界史B 川北聡ほか10名(帝國書院)	NEW・STAGE世界史詳覧(浜島書店) 世界史重要語句Check List(啓隆社) *23共通テスト 実力トレーニング世界史(啓隆社)
指導の重点	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。					
評価の観点	関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き 国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。				
	思考・判断・表現	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を 世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を 適切に表現している。				
	資料活用の技能	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。				
	知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知 識を身に付けている。				
学習の評価	1. 定期考査や模試で、「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」を評価する。 2. 授業中の姿勢、課題意欲やテスト等で、「関心・意欲・態度」を評価する。 3. 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。					
学期	月	考査	単元	学習内容	学習の目標(評価)	
1	4	中間	5章 イギリスの覇権と欧 米の国民国家建設	1イギリスの覇権と自由主義 2ヨーロッパに広がる国民国 家 3アメリカ合衆国の拡大と国 家統合	・産業革命の影響に着目して周辺の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、欧 米諸国の関係の変容などを多面的・多角的に考察する。 ・いわゆるバクス=ブリタニカがイギリスの自由主義政策によって維持されていたこと、また同じ時代に ヨーロッパでは国民国家形成の動きが加速したことを理解する。また同時期にアメリカ合衆国国民 国家体制を整えたことを理解する。 ・イギリスの覇権を学習するとともに、ウィーン体制が自由主義の広がりの中で崩壊していく過程とそ こから社会主義思想が芽生えていくことを学習する。また、ロシア・イタリア・ドイツ・アメリカなどの動 向にも留意する。	
			6章 世界の一体化の 進展とアジアの変容	1イスラーム諸国の変容と模索 2南アジアの植民地化と社会変容 3東南アジアの植民地化と社会変 容 4東アジア諸国の変容と模索	・「西洋の衝撃」の中、イスラーム世界は軍事的劣勢に立たされたこと、南アジア・東南アジアも植民 地化され、東アジアも圧力を受ける状況を理解する。しかし、その中で、厳しい国際状況に対応する 動きが生まれたことや、日本の「近代化」が東アジアにおける国際関係に大きな変化をもたらしたこ とを学ぶ。 ・ヨーロッパ諸国により、アジアの植民地化が進んでいく状況を各地域ごとに学習する。また植民地 が政治的支配を受けるのにとどまらず、経済的にも従属しているようすを学ぶ一方で、植民地化に 対するアジア各国の改革への動きを学習する。	
			3部 地球社会形成の 模索 1章 世界の一体化の 完成とその影響	1帝国主義と世界分割競争 2アジア知識人による体制改革の 試み	・第2次産業革命の中、「帝国主義の時代」が始まり、欧米諸国による世界の分割が進むことを学ぶと ともに、アジアにおける対応の様子を各地域の特色をふまえながら学習する。 ・世界の一体化が完成していく状況を、産業・社会の変化とともに捉え、ヨーロッパ各国の動向とアフリカの分 割・アジアにおける体制の変革を総合的に捉える。	
			2章 世界大戦の時代	1第1次世界大戦と社会主 義革命 2第1次世界大戦とアジアナ ショナリズムの展開 3大衆社会の到来とファシ ズムの出現 4第2次世界大戦とその惨 禍	・総力戦として行われた世界大戦の原因と影響を把握し、その惨禍を理解する。また戦争・戦間期 を通して、世界的に社会変革が起こったことを学び、20世紀前半における大変動を全体として理解 する。 ・「世界戦争」の時代において、アジアナショナリズムの興隆・社会主義国家の誕生などが相互に連 関したものであることを学ぶとともに、国際平和への努力もあわせて学習する。 ・総力戦として行われた世界大戦の原因と影響を把握し、その惨禍を理解する。また戦争・戦間期 を通して、世界的に社会変革が起こったことを学び、20世紀前半における大変動を全体として理解 する。 ・「世界戦争」の時代において、ファシズムの台頭などが相互に関連したものであることを学ぶと ともに、国際平和への努力もあわせて学習する。さらに戦後世界の枠組みがアメリカ・ソ連を中心に形 成されていくことを理解する。	
	9	2	中間	3章 東西冷戦から多極 的国際社会へ	1アメリカの覇権と冷戦のはじまり 2多極化のはじまり 3アメリカの覇権の動揺	・世界の覇権を握ったアメリカを中心として構築された戦後体制と、それに対するソ連を中心とした 社会主義国の動向と冷戦、それに対するアジア・アフリカ諸国の独立から、多極化への動きを理解 する。 ・アメリカの強大化と冷戦・第三世界の台頭とともに、各地域においては紛争が絶えなかったこと、ア メリカの覇権の動揺と社会主義国の経済の低迷などを学習する。
				4章 相互依存を深める 世界	1冷戦の終結とアメリカの動 向 2「東アジアの奇跡」と新たな 世界経済 3グローバル化の動きと世界 の変化	・世界の覇権を握ったアメリカを中心として構築された戦後体制と、それに対するソ連を中心とした 社会主義国の動向と冷戦、それに対するアジア・アフリカ諸国の独立から、多極化への動きを理解 する。 ・アメリカの強大化と冷戦・第三世界の台頭とともに、各地域においては紛争が絶えなかったこと、ア メリカの覇権の動揺と社会主義国の経済の低迷などを学習する。
				これからの世界と日本	・世界史を時間軸と空間軸から見 直す	・古代から現代までの世界史を学んだことを基礎として、国際関係・現代文明を改めて考察し、現代の難問を 解決する鍵を人類の過去の経験の中に探す。
				世界	・資料からよみとく歴史の世 界	・古代史から現代史までを再確認し、一度学んだところを何度も見返しながら、歴史、ひいては現代 への認識を深めていく。 ・同時代性に着目し、諸地域世界の接触や交流などを資料や地図・年表から、選択しまとめたりし て、よみとく技能を習得させる。
	3	3	学 年 末	1	・世界史を時間軸と空間軸 から見直す	・古代から現代までの世界史を学んだことを基礎として、国際関係・現代文明を改めて考察し、現代 の難問を解決する鍵を人類の過去の経験の中に探す。 ・古代史から現代史までを再確認し、一度学んだところを何度も見返しながら、歴史、ひいては現代 への認識を深めていく。
				2		
				3		